

③障がい者の住宅に関する課題等

障害者地域生活支援センターへのヒアリングより、居住実態・課題等について

「障害者地域生活支援センター らくなん」へのヒアリング より

■ 障害者の居住実態について

- ・親と持ち家に同居する人が圧倒的に多い。親も独立させたくない。
介助してきた家族が入院するなど、初めて一人暮らしをするケースもある。
- ・施設は一度退所したら再入所できないため、積極的に退所したくない。
家族も、せっかく入所できたのに考え、退所させたくない。
- ・施設から地域へと流れがあるが、住宅の問題は大きい。

■ 住宅確保に関する課題について

- ・住宅確保に関する相談は、施設退所や親元からの独立のための賃貸住宅探しが多い。
- ・障害者の転居には非常に労力や時間がかかる。住宅、介助者、サポート先を確保し、その後の生活が成り立つようにする必要がある。
- ・不動産業者で、あからさまに拒否されることもある。理解のある業者もあり、担当者が親身になってくれるかが鍵である。
- ・一度、大家と良い関係を築ければ、空きがでたら紹介してくれることもある。
- ・保証人が居ないという問題も大きい。大家から、支援センターを保証人との要望もあるが、できない。また、住宅に関する情報がセンター等に届いていないとも感じる。
- ・一般企業等に就職しているなどで、経済的に安定している人はあまり問題ない。

■ 障害の別による課題について

- ・身体障害では、バリアフリー設備の有無と家賃の兼ね合いが課題。車いすは住宅を傷めるので、入居前に柱や床をカバーするようにしている。
- ・知的、精神障害は周りの偏見が最大の課題。精神障害では、周囲の視線を感じる等の、症状によると思われる転居希望もある。
- ・知的障害では、壁をたたいたり飛び跳ねたりすることがあるので、壁の薄いアパート等でトラブルになる。1階を選んで居住することもある。
- ・障害の種類によっては、狭い方がが良い人もいる（脳性まひで伝い歩きをする方など）。
- ・ユニットバスは、狭くて使いづらいので物置になることが多い。

■ 市営住宅へのニーズについて

- ・賃貸住宅に居住する身体障害者のうち多くが、最終的に市営住宅の車いす住宅に入居を希望している。理由は、車いすが利用できる広さの住宅で、かつ家賃が安いからである。
- ・市営住宅の優先入居や車いす住宅の募集は年に1度しかないので、急ぐ人は空きの出やすい府営住宅にとりあえず応募する。
- ・GHやシェアリングが可能であれば興味がある。親が連携して民間賃貸住宅で行っている例は複数ある。物件確保が課題なので、ニーズはあると考えるが、世話人の確保が課題

「障害者地域生活支援センター にしじん」へのヒアリング より

■ 障害者の居住実態について

- ・全体としては持ち家で親と同居する者が大多数。発達障害や精神障害者は一人暮らしの割合が比較的高いが、知的障害は生まれつきなので、親と居住している割合が非常に高い。
- ・住宅に関してのトラブルを抱えるケースは多い。家族と暮らしていても、共同住宅の場合、音や偏見で転居せざるをえないこともある。
- ・原状復帰の必要があるので、賃貸住宅の改修は難しい。

■ 住宅確保に関する課題について

- ・近隣に大学がある関係で、2月は住宅相談が多い。他府県からの入学やキャンパスの変更に伴うもの。また、就職で京都に来る場合もある。年間にすると10件ほど。
- ・よく利用する不動産業者はあるが、偏らないようにしている。一人入居させてもらうと手間がかかるので、一箇所に負担してもらうのは難しい。
- ・移転の際にはやはりサポート体制の問題があるので、一定の地域（支援者が移動できる範囲）内で探さねばならない。
- ・自身や支援者の移動の便利さや、買物等でなじみがある、といった理由で、転居するのなら中京区へという希望が多い。（特に知的障害はイメージが苦手なので、新しい地域へは行きたくない。）また、障害者は公共交通機関に頼っているもので、バス、地下鉄の不便なところは難しい（家賃は、北上左中下東でほとんど同じくらいなので。京都バスは乗降しにくい車体が多いため、京都バスのエリアへの転居は難しい。）

■ 障害の別による課題について

- ・身体障害では、ハードが問題。新しい物件は比較的バリアフリー化されている。金銭的に余裕があれば入居できる。古い物件は入口の段差等でまず難しい。スロープをその都度設置するように言い、それとなく拒否する大家もいる。また、住宅自体が不便でも、ずっとすみ続けてきた地域にこだわり、移転を拒む人もいる。
- ・知的障害では、隣の家に入ろうとして警察沙汰になったケースや、年金や保護費を家賃支払日まで管理できずに家賃が払えなくなるケースがみられる。また、「手渡し」から「振込み」などの支払方法の変化に対応できないこともある。代理納付は一定トラブル等を防ぐことができるため、選択できるとよい。
- ・知的、精神障害の場合は、金銭的な余裕と、周囲の理解があれば選択肢はある。

■ 市営住宅へのニーズについて

- ・車いす利用者については、市営住宅の車いす住宅は、家賃が安く、設備が整っていて広いので、やはり希望がある。（便座がウォッシュレットになっているとさらに良い。）
- ・周囲に理解を得るのが最大の困難なので、市営住宅におけるGHの可能性は、魅力的。一つの階に2戸（2室＋2室）くらいの規模が適当だと思う。

（注）「らくなん」「にしじん」とともに支援エリアは上・中・下・南区だが、「にしじん」は北部の利用者が多いのに対し、「らくなん」は南部の利用者が多い。